



THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 シンポジウム

～朝鮮半島の不確実性を探る：米国と日本の取り組みから～
プレゼンテーションと公開セミナー（日英同時通訳付）

トランプ大統領と安倍首相は先月ニューヨークで会談し、北朝鮮の継続した挑発行為は「かつてない深刻な脅威である」との認識を共有しました。両首脳は、国際社会と協力・連携し、国連安全保障理事会の制裁決議の完全履行と北朝鮮への圧力を最大限に高める外交努力を追求する決意です。11月の東京での日米首脳会談及びマニラでの米ASEAN首脳会議や東アジア首脳会議では主にその取り組みについて話し合うとされています。これらの重要な会合に先駆けて、マンズフィールド財団は下記の通りシンポジウム「朝鮮半島の不確実性を探る：米国と日本の取り組みから」を開催いたします。本シンポジウムでは、専門家の方々に北朝鮮の脅威に関する視点を共有いただき、日本が米韓と共に北朝鮮の脅威に対処する方法を模索します。

記

日時： 2017年10月31日(火) 10:00～11:30

会場： 国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール

東京都港区六本木5-11-16 <http://www.i-house.or.jp/access.html>

参加費は無料です。参加ご希望の方は(1)名前(2)所属(3)連絡先の3点を明記して
tokyoadmin@mansfieldfdn.org までメールにてお申し込みください。

- プログラム -

開会挨拶

L・ディセイ・アンダーソン モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団理事会 会長

マンズフィールド財団による北朝鮮“Blue Sky”リサーチプロジェクトの概要と結果報告

フランク・ジャヌージ モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 理事長・CEO

パネルディスカッション

スー・ミ・テリー 米戦略国際問題研究所(CSIS)韓国問題シニアフェロー - 平壤からの視点

磯崎敦仁 慶應義塾大学准教授 - 北朝鮮問題の現状と日本

西野純也 慶應義塾大学法学部教授、同大学現代韓国研究センター長 - 北朝鮮問題での日韓関係の役割

司会進行：フランク・ジャヌージ モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団理事長・CEO

質疑応答

略歴

フランク・ジャヌージ モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団理事長・CEO

ジャヌージ理事長は 2014 年 4 月現職に就く。以前は、アムネスティ・インターナショナル米国事務局次長(政策・研究アドボカシー)として、人権擁護・個人と地域社会の安全・非合法に逮捕投獄された政治犯の釈放をすすめる法令や政策を立案、促進した。1997 年から 2012 年まで、米国上院外交委員会東アジアおよび太平洋地域担当の政策部長として、同委員会委員長のジョゼフ・バイデン氏やジョン・ケリー氏に、米国と同地域間の安全保障、政治、経済、人権等、広範な問題について提言を行ってきた。同外交委員会所属の 2006 年から 2007 年、外交問題評議会の日立国際問題フェローとして、東京の公益財団法人世界平和研究所訪問研究員および慶應義塾大学客員講師として、日本に滞在。米国上院外交委員会在籍以前は、米国国務省情報・調査局アナリストとして、9 年間勤務。エール大学で歴史学の学位、ハーバード大学ケネディー行政大学院で公共政策修士号を取得。アジアをくまなく旅行し、米国と日中北朝鮮関係を含む、東アジア政策問題について詳細に記述している。夫人のジェニファー・マーチン博士と二人の娘、ゾーイとカミールと共にボルチモア在住。



磯崎敦仁 慶應義塾大学准教授

1975 年東京都生まれ。慶應義塾大学商学部中退。在学中、中国・上海師範大学で中国語を学ぶ。慶應義塾大学大学院修士課程修了後、韓国・ソウル大学大学院博士課程に留学。在中国日本国大使館専門調査員、外務省第三国際情報官室専門分析員、警察大学校専門講師、米国・ジョージワシントン大学客員研究員、ウッドロウ・ウィルソンセンター客員研究員を歴任。共著に『新版 北朝鮮入門』(東洋経済新報社、2017 年)など。専門は北朝鮮政治。



西野純也 慶應義塾大学法学部教授、同大学現代韓国研究センター長

慶應義塾大学法学部政治学科卒業、同大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了、韓国・延世大学大学院政治学科博士課程修了(政治学博士)。専門分野は東アジア国際政治、現代韓国朝鮮政治、日韓関係。在韓国日本大使館政治部専門調査員(2002-2004)、外務省国際情報統括官組織専門分析員(2006-2007)、慶應義塾大学法学部専任講師、同准教授を経て現職。2009-2013 年には日韓新時代共同研究プロジェクト日本側幹事を務める。2011-12 年にハーバード・エンチン研究所交換研究員、2012-13 年にウッドロー・ウィルソン・センターのジャパン・スカラーおよびジョージ・ワシントン大学シングル・センター客員研究員を歴任。



スー・ミ・テリー 米戦略国際問題研究所(CSIS)韓国問題シニアフェロー

スー・ミ・テリー氏は米戦略国際問題研究所韓国シニアフェロー及び Bower Group Asia のシニアアドバイザーを務める。以前は2009年から2010年まで国家情報会議の東アジア国家情報オフィサー補佐、2010年から2011年までニューヨークにある外交問題評議会のロックフェラースタディープログラムの国家情報フェロー、2011年から2015年までコロンビア大学のウェザーヘッド東アジア研究所でシニアリサーチスカラーとして従事した。2008年から2009年の間はジョージ・W・ブッシュ大統領、バラク・オバマ大統領のもと、アメリカ国家安全保障会議で韓国、日本、オセアニア問題のディレクターを務め、これらの国・地域に対するアメリカ外交政策のまとめ、調整、実施を行った。また、米中央情報局(CIA)では韓国問題の上席分析官を務めた(2001年-2008年)。メディアに多数出演しており、これまで CNN、NBC、MSNBC、BBC、PBS、Fox News、Bloomberg、National Public Radio、Voice of America、Radio Free Asia などでコメンテーターを務めてきた。1993年にニューヨーク大学で政治学学士号取得後、1998年と2001年にタフツ大学から国際関係の修士号、博士号を取得。

